

## 1年半経っても気持ちが変わらなければ・・・



春といえば桜。咲き誇る時も散りゆく時も美しく、日本人にとって特別な花ですね。以前ニューヨークから来たミュージシャンに「さくら」は美しい曲だけど楽しい歌なの？それとも悲しい歌なの？と聞かれて返事に困ったことがありました。一言で説明するなんて難しい。すると同席していた日本在住のアメリカ人が「日本人には複雑な感覚があって、たくさんの種類のHappyと悲しさがある」と答えてくれました。そうだった！私達日本人にはそういう繊細な感情があったのです。

さて、高校2年生の秋、私にとってはまさに春のような季節でした。ヤマハポップコンで賞を取ったことで、いくつかのレコード会社から専属契約のお話をいただきました。嬉しかったあー。これで音楽の事だけを

考えて生きていけると思いました。プロデューサーとかディレクターとかハイカラな肩書の人達が、東京から北九州の辺鄙な所まで来てくださって大喜びの反面、自分が田舎の小娘なのが恥ずかしくて小さくなっていました。ここから先のレコード会社との契約など難しい話は子供の私では無理なので、父が対応してくれました。父は音楽活動に賛成でも反対でもなかったけれど、今思えば娘を上京させて離れていくことはイヤだったろうなあ。各社のお誘いは、直ぐに上京して東京の高校に編入しデビューするという事でした。でも、それはできません。今の高校を卒業すると父に約束をしていたからです。しかしこんなチャンスは2度と来ない、もう家を出よう、行くところまで行ってしまいたいと思いました。父にたくさん相談しました。結論は、1年半経っても気持ちが変わらなければ行って良いという父の言葉に従い、卒業後にヤマハと契約をする事にしました。卒業までの間はヤマハの制作室預かりとして、春休みや夏休みに上京して担当のディレクターの下で経験を積んでいくこと



Kei Hoshino

2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される

にしました。当時のポップコンは年に2回あったので、私がデビューできずに悶々としている間にも、因幡晃さんや中島みゆきさん等々のアーティストが開花していきました。私は完全に出遅れたし、古ぼけた存在になっていきましたが、後になって慌ててデビューに飛びつかなくて良かったと思いました。この1年半の間に、デビューしては消えてゆく私のような地方出身者をたくさん見るようになったからです。この間、これといって勉強なんて無いのですが、担当ディレクターに曲作りの参考になるレコードを聴かせてもらったり、資料室でレコードを探したり、レコーディングスタジオの散策や誰かとお喋りしたりと音楽制作に関わるいろいろな事を見せてもらえました。私は根っこを育てる時代に入っていました。桜は花を咲かせていない間、根っこを育ててるんだもんね。